

第5回（平成25年度）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 京都環境文化学術フォーラム「国際シンポジウム」開催概要

1 日時

平成26年2月23日（日）

■「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 午後1時～2時15分

■京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム 午後2時30分～5時

2 場所

国立京都国際会館 メインホール

3 内容

（1）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

宮脇 昭氏（横浜国立大学名誉教授／公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長）を第5回殿堂入り者として顕彰し、認定証及び記念品を授与しました。殿堂入り者からは記念スピーチを頂戴しました。



会長式辞



認定証の授与



記念品（風神雷神図（西陣織授与））



記念スピーチ

(2) 国際シンポジウム

ア 記念講演 宮脇 昭氏



これまで取り組んでこられた国内外での植樹活動や、東日本大震災後の復興活動などについて講演されました。

潜在自然植生に基づく土地本来の森が、火事や地震、台風などの自然災害から私たちの命を守ってきたこと、そして、命と心、文化と生活を守る、いのちの森づくりを進めていくことが必要である旨述べられました。

イ シンポジウム

『きょうから考える森（みどり）と地球（あお）の未来～グローバルコモンズを目指して～』をテーマにシンポジウムを開催しました

[パネリスト]

宮脇 昭氏

ワンジラ・マータイ氏(ワンガリ・マータイ平和と環境学研究所理事)

桑村 綾氏(株式会社紫野和久傳代表取締役)

[コーディネーター]

井上 章一氏(国際日本文化研究センター副所長)



ウ 内容

土地本来の植生や植樹活動などについて、ディスカッションを行いました。

○土地本来の植生について



宮脇氏：日本人は世界で唯一、鎮守の森を作ってきており、約 4000 年前から日本各地に残っている鎮守の森を調べれば、土地本来の植生がわかります。私は、日本中を歩いて本来の自然植生を調べ、「日本植生誌」全 10 巻を書きました。



マータイ氏：アフリカの場合、鎮守の森はないが、聖なる木、御神木があり、何百年も生き続けています。こういった御神木が多く生えている森は、多くの場合、実際に生態的な機能を備えています。例えば御神木の一つに、フィグという木がありますが、地中深くに根を張り、地下水が上がってくる経路を作っています。そのため、この木があるところには必ず泉があります。

宮脇氏：マータイさんのおっしゃるように、世界中どこでも、現場に行けば、御神木のように自然から発せられる微かな情報から、土地本来の植生がわかります。また、特に厳しい状態、例えば、台風、地震、火事等が発生した後に生き残っているものが自然植生といえます。



井上氏：マツは必ずしも本来の東北の木ではないそうですね。でも、陸前高田では、別れの 1 本松を愛おしむように、人々があの松を大事に扱っている。そのことについてどのように考えますか。

宮脇氏：そもそも、マツは、潜在自然植生では尾根筋や岩場などに若干生えるだけですが、人間活動によって 250 倍以上に増えています。土地本来の自然植生の主木であるシイ、タブ、カシ類などを植えれば、より健全な、すべ

ての市民のいのちと生活を未来に向かって保証する森が生まれます。

井上氏：生態学的な捉え方と文化論的な捉え方とでは、違った点があるのではないかと思います。できれば、マツとも仲良くできる道を探っていただければと思います。

○植樹活動について



桑村氏：宮脇先生は、どこで植樹をされる場合も、「植樹の大事さを子ども達に教えたいので、子ども達に参加してもらおうように」と働きかけていらっしゃる。そして、私どもの工場の近所の小学校の校長は、植樹活動に参加することを喜んで受け入れてくださった。このような活動を教育の一環として広げていくことは大変よいことだと思っています。

従業員にも植樹してもらったが、宮脇先生の御指導により、社員教育になります。

マータイ氏：植樹に参加する人たちは、木に対して親しみを感じ、時間をかけて育てたいという気持ちが高まって、木が生き残ってほしい、生き延びてほしいと強く思うようです。植樹活動は、コミュニティの核になる森林を保護している、そして社会に貢献しているという満足感を得ることができる活動なので、非常に精神的にいい効果があると思います。

エ 総括(井上氏)



実際の企業活動には、心ならずも地球を汚してしまっている部分が伴うが、一方で多くの良心的な企業は、地球を緑にする活動も行っている。

地球のように空気や水があり命が育まれている星は希少な存在であり、手入れを怠ると荒れ果てた星になるのではないかと感じることもあり、地球を緑にするための人為的な努力が必要だと思う。